

農大だより

第23号



発行：平成30年12月
栃木県農業大学校
〒321-3233
宇都宮市上籠谷町
1145-1

TEL:028-667-0711

数字で紹介！農業大学校

栃木県農業大学校長

杉本 宏之



「農大だより」。昨年からは、農業を職業にしたいと考える高校生などを対象として、「栃農大を身近に感じてほしい」「栃農大を進路のひとつとしてほしい」という思いを込めて作成しています。私からは、数字で栃農大を紹介します。

48

栃農大の敷地面積48畝です。栃農大の広さを紹介する時に「東京デイズニーシー（49畝）」と同じ面積ですよ」と言っています。

農大祭などで栃農大に来る人の多くは、校舎周辺を見ただけで帰られてしまうので、広さを実感する人はあまり多くないかもしれません。ほんの少し足を伸ばせば、ハウス群や畑、放牧地、さらに歩けば水田。そして国道の北にはトラクタの運転コースや寮など数多くのアドベンチャーワールドが広がっています。

123

本科一年生60名、二年生63名で平成三十年度の学生数が123名です。

入学資格は高校卒業程度で農業系の卒業生が七割弱を占めますが、普通科や家庭科、食品科の卒業生もいます。また、四大を卒業したり、一旦就職した後に入学したり

する人も。いずれも「農業を勉強

したい」「将来農業に関係する仕事

がしたい」という若者ばかりです。

栃農大では、実践的な教育に加え、卒業後に即就農したり、海外で研修をしたり、農業関係の団体

や企業へ就職、さらには四大への編入など、それぞれの学生が描く

夢が叶えられるよう進路支援を行っています。

50・50

本科の講義と実習の履修時間の比率。実習が履修時間の半分です。

農業はお天気相手の仕事。理論通りにいくのはむしろまれで、同じ作物を作っても毎年同じという

わけにはいきません。

「習うより慣れろ」。座学だけではなく、実際に作物を栽培して、

家畜を飼って農業技術を学んでいきます。そして「なんでこうなる

んだろう」「こうすればもっというんじゃないか」など、感じた疑問を卒業研究として掘り下げることが

できます。講義では静か（？）、でも実習になると生き生きと励む

学生、それが農大生です。

77と17

Uターンや定年後に新たに農業

を始めたいと考えている人を対象

とした就農準備校「とちぎ農業未来塾」、農業経営者としての資質の

向上を図ろうと考えている農業者を対象とした先進的農業者育成研

修「とちぎ農業ビジネススクール」などを併設しています。

平成三十年度は前者が77名、後者が17名の研修生で、本科と

同じ校舎やほ場で知恵を絞ったり、汗をかいたりしています。

1・252

サクラ、トチノキ、ナラ、クヌギ、メタセコイヤ、サワラなど校

内に生えている樹木の数が1,252本。果樹のナシやリンゴなど

も含まれています。ただ多分誰も数えたことはない（？）ので、正確な数は分かりません。

昭和十三年に清原農学寮として

現在地に移転した際に植えられた樹木も多くあり、それらでさえ樹

齢は八十年。これまで多くの学生を見守ってきてくれました。

以上、数字から栃農大を紹介してみました。

栃農大であなたの農業の夢を叶えてみませんか。私たちはいつでも

皆さんをお待ちしています。

【農業経営学科】

水田を利用した水稲・麦・大豆や露地野菜の栽培・経営技術について学び、農業経営者等に必要能力向上を目指しています。

水稲・麦・大豆栽培では、大型農業機械の作業も学生が自ら操作し、実践に即した技術を学習しています。また消費者ニーズの多様化を反映し、様々な野菜を栽培しています。

昨年度から、園芸大国とちぎづくりに向け、水田を活かした「たまねぎ」栽培を始めました。全農とちぎ等の協力により、播種、定植、収穫等の機械化一貫体系について学習するとともに、三人の学生がたまねぎをテーマに試験に取り組んでいます。



【園芸経営学科野菜専攻】

本県主要品目のいちご、トマト等の施設野菜について、三十三名の学生（うち女性は十二名）が実習と講義を通して栽培・経営技術を学んでいます。

いちごは「とちおとめ」「スカイベリー」等の品種を栽培しており、土耕栽培のほか高設の養液栽培により、現場に即したノウハウを習得しています。

トマトは、ハウス内の温度・湿度・炭酸ガス濃度などをスマートフォンなどで確認・制御（ICT技術）ができる最新の環境制御装置を備えた高軒高ハウスでの土耕促成長期どり栽培や、ロックウール培地での養液促成栽培に取り組んでいます。



【園芸経営学科花き専攻】

二年生五名に一年生三名が加わり、合計八名の学生がスプレーギク、カーネーション、ユリ等の切り花やシクラメン、ガーベラ、カトレア等の鉢花栽培に取り組むほか、いろいろな花の栽培方法を学びます。学生は日々、当番や実習に全力で取り組むことにより、理論だけではなく実践できる力を身に付けていきます。

また栽培した農産物は、市場出荷やイベントにおける販売で、売ることの大変さや大切さを学んでいます。特にメインとなる農大祭では、シクラメン等の鉢物を対面販売して消費者との交流を図り、貴重な体験となっています。



【園芸経営学科果樹専攻】

果樹専攻は、果樹関係講義と実習により、果樹の栽培経営の概要について学習します。

果樹園では、県の主品目であるなし、ぶどう、りんごをはじめ、くり、かき、ブルーベリーなどが植栽され、品種、樹齢もさまざま、時期ごとに多様な管理作業が実地で学べます。

ハウスには県の試験場で開発した技術である盛土式根圏制御栽培がなし、ぶどうで実施されており、卒業後に導入する計画の学生もいます。

また、今年度は、昨年度の「露地なし」に「りんご」「ぶどう」を追加しグローバルGAPの認証を取得しました。生産工程における食品安全、労働安全、環境保全についても学習をすることができます。



【畜産経営学科】

一年生と二年生の合計三七名で、乳牛と肉牛の飼養管理や飼料作物の栽培について学んでいます。今年三月には新たに「ドリーム牛舎」が完成し、学生は先端技術を活用しながら実習に取り組んでいます。毎日の搾乳や給餌は、当番の学生が朝早くから行います。入学して初めて牛を触った一年生も、この半年でスムーズに作業が出来るようになりました。時には牛の分娩に備えて、夜間待機することもあります。また、校外学習では先進農家や関連施設を見学し、専門知識を習得しています。二年生は家畜人工授精師養成講習会がスタートしました。



非農家出身の学生も多く、卒業後は畜産経営の従業者や、畜産関連産業へ就職を目指しています。

【農業機械研修】

農業の大規模化・ICTやロボットの進歩の中で、これからの農業経営に欠かせないのが、トラクタ等の機械を適切に使用することです。



一学年時には、農業機械基本実習において、トラクタの運転コースでの路上運転実習により大型特殊免許（農耕車限定）を取得するとともに、トラクタの点検整備やほ場におけるロータリ耕うん、安全な工具の使用方法等について学びます。

二学年時には、けん引作業機の運転操作技術を習得し、けん引免許を取得します。また、トラクタの定期点検に準じた作業や、ガソリンエンジンの分解組み立てを行い、農業機械整備に必要な基礎的知識及び技術を習得します。

学生寮はどんなところ

農大では、入寮が義務づけられている一年生全員と、二年生の希望者（実家が遠い等、毎日の通学が困難な者）が入寮し、規律ある生活を送っています。校舎から国道をはさんだ北側、木立に囲まれた静かな場所に男子寮、女子寮があります。どちらも二階建てですが、女子寮は木造のモダンなつくりです。休日も宿泊は可能（一部期間を除く）で、日曜日の農場当番作業等に励んでいます。

寮の一日

寮生活は朝七時の起床、清掃から始まり、食事は三食とも学生食堂でとりまします。入浴後には毎日の当番が点呼を行います。その後、夜十一時に消灯です。自由時間は、それぞれ自分の部屋で仲間と談笑したり、体育館を利用してスポーツで汗を流したりしています。寮の仲間とは、朝起きてから寝るまでずっと一緒に過ごすため、通常の学校生活を送るよりも一層仲が深まります。また、同年代だけではなく一年生と二年生の交流も多いですが、厳しい上下関係も無く、皆で和やかに生活しています。

寮生会

寮生で組織する「寮生会」は、主に寮生活をより良くするための自主的な組織です。学習生活部、環境整備部、事業部の部門に分かれ、役割を分担しています。会では寮生の意見を積極的に取り入れ、今年には念願だった各寮へのWiFi設置を実現しました。また、全体ではバーベキューやボウリング大会などの親睦行事、消防訓練も行い、寮生間の親睦を深めています。

（寮生会長 畜産二年 江田一貴）



学生自治会って

どんな組織？

「自治会長の島田です！」



こんにちは！園芸経営学科野菜専攻二年の島田雅士です。学生自治会の会長を務めています！

学生自治会とは、高校の「生徒会」にあたる組織です。

学生だけで組織し、サークル活動や、校内スポーツ大会（春と秋）、農大祭の企画・運営に携わっています。

今年度は、二年生が十七人、一年生が十七人、計三十四人の役員で活動しています。

【春季校内スポーツ大会開催！

各種目で熱い戦いが！

今年の五月十六日（水）に、春季校内スポーツ大会が開催されました。競技は、バドミントン、バスケットボール、サッカー、卓球、綱引き、リレーの合計六種目を学科ごとに分かれて競い合いました。いつも農業をやっている姿しか見ることがない友人や後輩達が、頑張つて優勝を目指して競技に臨んでいる姿を見て、私はとても感動しました！

今年は、畜産経営学科が総合優勝し春季校内スポーツ大会は大いに盛り上がりました。



【東関東スポーツ大会開催！

各校の威信をかけた戦い！



五月二十五日（金）には、東関東スポーツ大会が開催されました。

この大会は栃木農大、茨城農大、千葉農大、鯉淵学園の四校で行われる親睦大会のことです。大会は毎年開催されており、今年は千葉県農業大学校が主催でした。

栃木農大はサッカー、男子バスケットボール、男子卓球団体が優勝し、野球、バドミントン、テニス、バレーボールでも、素晴らしい成績を残しました。他学科の人と協力して優勝を目指す大変思い出に残る大会となりました。

【秋は農大祭の季節！】

今年度は、十一月二十四日（土）二十五日（日）に農大祭を開催しました。

「栃木の恵みで育った若き力の農大祭！」をテーマに農大産の野菜や米、餅、花などを販売して、来校された方に、若い力が育てた、力強い恵みをお届け出来たと思います。

また、今年は様々な新しい企画に取り組み、昨年よりも準備が大変でしたが、来場者の皆様にも楽しんでいただけたと思います。

自治会役員全員が協力して、学生時代の良い思い出にすることができました。

来年も是非遊びに来て下さい。来校心よりお待ちしております！



個性豊かな講師陣

【農業経営学科 樋山教授】

丸顔のシルエットと笑顔が「とちまるくん」に似ていると密かにうわさになっていきます(笑)。主に水稲に関する講義や実習を担当され、丁寧で優しく、時にはおやじギャグを織り交ぜながら指導してください。また、今年はお寮の担当で「男子寮に住んでいるのではないか?」と思うくらい学生の寮生活の向上のために尽力してください。

学生ファーストで、いつも学生の近くで真っ黒になりながら熱心に導いてくれる頼りがいのある先生です。



【園芸経営学科野菜専攻 品川主任】

普及の現場で三年、その後行政マンとして五年、今年九年目の現役バリバリの先生です。主に野菜の講義といちごの実習を担当しています。

また、学生自治会の顧問として、学生が運営する校内スポーツ大会や農大祭などのイベントをサポートしています。さらに、HP担当として栃農大の魅力を外部に積極的に発信するなど積極的に学生に向き合っています。



【園芸経営学科花き専攻 生井教授】

今年四月、園芸経営学科花き専攻の教授として着任しました。誕生日は七月七日。明るく優しい性格、たぶん・・・趣味はお酒をのむこと。スポーツはテニスとスキーが好き。そして、植物の遺伝子をのぞくこと?

昨年まで農業試験場で「いちご」や「ら」 「あじさい」等のDNAを解析し、品種改良の効率化や品種特定の仕事をしています。生井先生と農大オリジナルの新品種の育成に挑戦しませんか。



【園芸経営学科果樹専攻 岡本助教授】

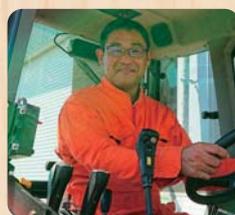
果樹を担当する新進気鋭の岡本助教授は、ぶどうを中心に、くり、かき、キウイフルーツ、ブルーベリーなどを担当し、わかりやすく新しい内容で、なおかつ今の農業事情に即した講義や実習に余念がありません。というのも、先生はこれまで、試験研究、普及、行政と豊富な経験があるからです。



【畜産経営学科 佐田助教授】

主に飼料作物に関する講義、実習を担当しており、飼料作物の栽培に欠かせない大型機械の操作からメンテナンスまでこなす頼もしい先生です。さらに、これまでの経験を活かし、牛の人工授精や分娩介助などの繁殖管理、二年生の「家畜人工授精師免許」取得に向けた指導にも熱心に取り組んでいます。

また、学生自治会の顧問として、学生が運営する校内スポーツ大会や農大祭などを熱くサポートし学生からの信頼も厚く、頼られる存在の先生です。



【学生課 渡辺主事】

栃農大で一番の若手であることを自負しながら学生課業務を活動的にこなしています。主な担当業務は、入学試験、オープンキャンパス、証明書発行等の業務です。

また、趣味のカメラを活かし、校内行事の記録を始め、どこへでも遠征して学生の生の姿を積極的に記録し続けています。料理も得意で、農大産の野菜等を使った料理を昼休みに職員に振る舞うなど「事務部の料理番」的な一面も持ち合わせたマルチな人です。



【船山瑛子さん】

平成二十一年度卒業

那須烏山市で、パートナーと父の三人で水稲、麦、西洋野菜を生産しています。



普通高校出身で、当時、農業をやりたいとは思っていなかったのですが、高校時代の友人の「農業ってかっこいいよね。私たちの食べているものは農家さんが丹精をこめて作ってくれます。だから美味いんだよね」と語ってくれた一言から、農業は人を感動させる職業なんだ、農業の楽しさは一体なんだろうと興味を持ちはじめたそうです。

農業に挑戦する気持ちで農業大学校に入学し、学校では農家派遣実習でお世話になった農業者との出会いにより農業の楽しさを実感することができ、農業への思いが強くなりました。卒業後就農と同時に、4Hクラブに入り農業につ

いて相談できる仲間と出会い、その後、全国農業青年クラブ連絡協議会理事や事務局次長を務め、農業生産だけでなく、全国の仲間と交流を深めながら社会人としての考え方や人間性を磨きました。

就農当時は、水稲、麦、大豆を経営していましたが、父とは違う作物に挑戦したいと思い、JAの野菜部会に入り西洋野菜を取り入れました。二十五歳の時に経営権を譲り受け、作付計画から栽培管理、会計処理、農業機械の使用に至るまで、経営全般の管理を任されています。

今後は、販路拡大や新たな作目の生産を試みるとともに、次世代に農業の魅力を伝えられる農業者になっていきたいと目を輝かせて語ってくれました。また、農業を目指す学生へ「目標に向かって、若いからこそ失敗を恐れず挑戦してほしい」とのメッセージをいただきました。



【佐原賢治さん】

平成二十二年度研究科卒業

佐原さんは、農業大学校卒業後の平成二十三年四月に即就農しました。現在、いちご三十一号水稲百二十号を御両親とともに三人で経営しています。

経営主力のいちごは三品種を栽培しており、「とちおとめ」が二十号、「スカイベリー」は十号ですが一般栽培になった平成二十七年産から導入しています。さらに「なつおとめ」は一号ですが、今年で三年目だそうです。周年栽培を目指して頑張っています。



組織活動では、平成二十五年に栃木県青少年クラブ協議会の副会長を、そして平成二十六年と二十八年には地区の会長を務め、若い担い手のリーダーとして活躍されました。特にクラブ員の減少が問題で、協議会の運営に大変苦慮したそうです。

農大生へのアドバイスとして、「最先端の施設や設備が整っており、よい環境にあると思っています。絶好のチャンスであるので、いろんなことを是非学び取っていただきたい」とコメントしてくださいました。

現在、農大で実施している「とちぎ農業ビジネススクール」に通っています。講師陣も充実しており、専門的な授業に新鮮さを感じるとともに自らの経営を見直す絶好の機会となっております。今後の活躍がますます期待されます。



【齋藤秀樹さん】

平成十四年度研究科卒業

齋藤さんは、日光市で水稲約五畝、リンドウ五十坪を作付けする他、約二畝の水田農作業を受託しています。経営の柱であるリンドウは、面積の約九割がパイハウスでの栽培で、他県産地に先駆け五月下旬から七月にかけて出荷を行う早出しで有利販売につなげています。

齋藤さんは現在三十八歳、地域のリンドウ生産部会の数少ない若手の一人として産地を牽引する存在です。高校は普通科でしたが、将来就農を希望していたことから、農業についての広い知識を習得したいと思い農業大学校に進学しました。卒業後は、海外の農業事情を肌で感じたいと一年間ドイツで農業研修を経験し、平成一七年に就農しました。就農にあたっては、親と部門を分ける選択肢もありましたが、短期間で多くの知識や技術を身につけるには、経験豊富な父親に付いて学ぶことが一番と考え、行動を共にする決断をしました。怒鳴られることは日常茶飯事で、やめようと考えたこともあつたそうです。我慢できたのは父親を尊敬していたこと、そして怒ら

れた内容を改めて考えると、納得できることが殆どだったとのことでした。

今では全ての農作業を任されていますが、一通りの仕事を自分一人で正確にできるようになるまでには苦労が耐えなかつたそうです。現在では経営の中心となり、リンドウの収益アップに向け、連作障害対策に力を注ぎ、将来は、早出しを中心にしつつ、父が若い頃実践していた晩秋までの長期出荷に挑戦することです。

先輩たちの努力で育成した産地オリジナルの早出し用品種「日光みやび」をしっかりと維持し、産地を今まで以上に盛り上げて行きたいと力強く語ってくれました。



【平山貴陽さん】

平成二十四年度卒業

平山貴陽さんは普通高校を卒業後、本校果樹専攻に入学し、平成二十五年三月に卒業しました。在学中は、将来なし経営の後継者となるため卒業研究では「にっこり」の摘果についての調査研究に励みました。

家は、約三畝の梨と一畝弱の水稲を栽培する地域でも大きな梨農家で、入学時はいずれ就農する考えでしたが、卒業後は、県北部のスーパーマーケットに就職し、数カ所の店舗に勤務し、青果物担当として仕入れや販売業務に三年間従事しました。そこで梨以外にもいろいろな果実や野菜の販売状況を目の当たりにして、消費者の立場に立った青果物を見るきびしい目を養いました。「石の上にも三年」の言葉どおり、三年でより良い梨生産者となるための修行（他産業従事）を終了し、平成二十八年四月にUターン就農しました。現在は、両親とともに、幸水、豊水、にっこりなどの栽培にあたっています。

現在栽培している梨園は親が植付けた成木園のみですが、今後は、JAなす南梨部会研究部員の意見

も取り入れて栽培内容も見直していきたいとのことでした。また、同研究部活動であるスーパードの販売促進活動にも参加する予定です。さらに、自分が生産した「にっこり」の販売状況を見るためにマレーシアに行く予定で、いろいろな点でスーパードの勤務経験を活かすことができます。

本人曰く、農業は天候に左右されたり定期的な休みがとれなかったりと思い通りにならない点もありますが仕事は面白く、やりがいがあるとのことでした。



【上野貴俊さん】

平成十八年度卒業

上野さんは、県内の普通科高校を卒業後、実家を継ぐことを見据えて農業大学校に入学しました。農大時代は学校での勉強の他、夏休みに農家で長期実習を行ったり、オーストラリアやニュージーランドでファームステイをした経験が、就農への意思を強くしたそうです。また、得意のバスケットでスポーツ大会を盛り上げたり、農大祭のPRのために友達と出演した地元ラジオ番組の大喜利大会で、みごと優勝！するなど、楽しい学生生活を送りました。

卒業後は、群馬県の大規模肥育農場で二年間研修を行った後、実家に就農しました。現在は、お父様と一緒に水稲三鈴と和牛百四十頭を肥育しており、牛舎の管理は主に上野さんが行っています。ブランド牛肉「とちぎ和牛」を生産するために日々試行錯誤を重ね、特に素牛価格が高い昨今は、事故による牛の廃用を防ぐため、牛舎の見回り回数を増やして牛の異常を早く発見できるように心掛けています。また、夜間の労力を減らすため、牛舎内にカメラを設置し、牛の様子を自宅からスマ

ホで確認出来るような取り組みも始めています。

農大時代の寮生活では、同級生の他、先輩後輩など学科を越えた様々な仲間と毎日を過ごしますが、そこで培った人との繋がりは今でも役に立っているそうです。

「将来的には、繁殖から肥育の一貫経営も視野に入れて頑張っていきたい。」と話す上野さん。今後の活躍が期待されます。



とちぎ農業未来塾

四月に開講した「とちぎ農業未来塾」は七十七名でスタートしました。各種作物の栽培の基礎やそれぞれの専門の品目についての栽培技術、農業経営や農作物販売に必要な知識等を学んでいます。就農準備基礎研修コースでは、降雨等により予定した作業ができない日もありましたが、一部作業内容を変更するなどして実施することができました。また、就農準備専門研修（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）は、各専攻に分かれ実習中心に学んでいます。



多様な担い手への支援

とちぎ農業ビジネススクール

六月から開講した「とちぎ農業ビジネススクール」は、県内各地から選ばれた十七名の研修生でスタートしました。

商品開発のアイデアや販売戦略としてのマーケティング、雇用管理、財務管理などを学んだほか、農業経営者としての人間力、発想力などについて演習を交えて学びました。さらに、各自の個別課題を整理分析し、その改革を図る「経営改革プラン」を策定しました。今後はこのプランの実現に向け、各地域の経営モデルとなり、本県農業のけん引役となるものと期待されます。

